

表1 音読学習カード

だい()		教科書()		ページ()		ページ	
めい	日	ま	こ	文	気	の	つ
日	日	ち	え	や	の	つ	い
日	日	が	の	こ	の	た	た
日	日	え	の	と	の	た	た
日	日	ず	は	ば	の	た	た
日	日	に	よ	は	き	た	た
日	日	読	か	た	た	た	た
日	日	ま	ち	が	え	ず	に
日	日	読	め	た	か		
日	日	こ	え	の	大	き	さ
日	日	は	よ	か	っ	た	か
日	日	文	や	こ	と	ば	の
日	日	き	り	の	く	ぎ	り
日	日	は	よ	か	っ	た	か
日	日	気	の	つ	い	た	こ

◎よい ○だいたいよい △もう少し

表2 指導課程

段階	学習内容・活動	時間(分)	予想される児童反応	資料	指導上の留意点
導入	1 本時のめあてと学習内容をつかむ ○登場人物が泳いでいたときの様子を話して読みとって動いたり話し合ったりする	5	○本時のめあてと学習内容がわかる	カード	○登場人物の絵カードを黒板にはって、説明することにより、めあてを正確にとらえさせる
展開	2 語句を読む練習をする ○かめ ○どじょう ○めだか ○川の中	5	○カードを出す。 ○カードを声を出して読む	語句カード	○この時間に使う語句の練習をする
	3 本時の学習することを音読する	5			○音読するときのめあてを認める(自由読み)
	4 教師が範読して聞かせる	15			○登場人物の様子がわかるように範読する
閉	5 本時の学習するところを指名読みさせる	5	○指名された児童が読む(3名)		○指名するとき、教師は音読カードにチェックしていく
	6 登場人物の行動を読みとり、動作化する ○どんなふう泳いできたか ○どんなことをいったか	15	○きめられた登場人物の会話を想像し、ノートに書きこむ。 ○きめられた登場人物になって動作したり、話したりする	かんわり	○あらかじめ一人一人を登場人物にありあておく ○はずかしからず、登場人物になりきって、楽しんでできるように、かんわりをかぶらせる
	7 学習した部分を複写する	18	○一字一字でいいいに複写する。 ○書き終わったら全文を小さい声で読む		○ますいっばい、大きく書かせる
	8 本時の学習場面を表現するように読む ○学習した部分を読む	18	○指名された児童が読む(4名)		○指名するとき、個人の音読カードにチェックする(教師) ○登場人物になったつもりで、声に表わして読むようにさせる
終末	9 次時予告 ○次時「かくれんぼ」の様子を読みとり動作化する	2			

音読の形態	回数
自由読み	3
指名読み	2
座席順読み	1
役割読み	1
範読	1

・全文の音読、漢字の練習。
 ……一時間
 ⑥本時のねらい
 ・登場人物が泳いで来たときの様子や会話を通して、豊かに想像することができる。
 ⑦指導過程(概要)(表2参照)
 指導過程の中に、音読をどのように位置づけるかも大きな研究課題

題であり、授業研究を通して今後
 解明しなければならない。
 この「かくれんぼ」の場合、音読の機会は上の通りであった。
 音読カードのチェックは、展開の終わりで行うことが多い。
 (三)「音読カード」の考察
 カードに記入するためには、めいめに音読させなければならぬ。
 本校は少人数なので教師チェック、児童相互の評価ができる。
 子供の反応は、音読に対して関心を示すようになったこと、声の小さな子、読みの遅れがちの子も少しずつよくなってきたこと、繰り返し読みが少なくなってきたことがあげら

れる。
 問題点としては、教師が「気のついたこと」の欄を記入するのは少し無理があること、読みぶりの変容を教師が明確にとらえることが困難であることなどである。
 授業時間内での音読には、限りがあるので、本校では朝の五分読みのほか、家庭で父母の前で音読し、父母に評を書き加えてもらう方法を取り、音読の機会を多くもち、すらすら読めるように努めている。
 土曜日の朝の会には、発表活動として国語の教科書を二、三名の児童に朗読させている。
 児童が自分の当番の前には練習を

して、上手に発表できるようにしてきたことは、このカード使用の一つの成果と考えられる。
 六、終わりに
 すべての子供が文章をすらすら読め、読みとる力をつけるには、どうすればよいかを課題とし、その一方法として、音読カードの利用、教師の範読をとりあげたわけである。
 しかし、音読カードを使用した題材と期間が限られ、ようやく緒についているのが現状である。
 今後、授業研究を通して、仮説を検討し、音読カードに改善を加え、この課題を追及するなかで、すべての子供に読む力を育てる学習指導のあり方を明らかにしていきたい。